

紅印

18.10  
4276  
19.2



門 2.3  
號 6619  
卷 14





此等しいと云ふ遊生乃し事  
備あり小悦いそたりき  
武家繁葉を全く朝廷に  
光輝をそとせり遊生乃し事  
形より心乃しけし人其く  
をいほるをいしとらたり  
いふくいと子と世の秋より  
松乃て文乃そたにこのま  
くそらんすらめとく心  
んし





月日ありて元事し 御名を

母より六封月平河なりて

料紙を布月萩原一守

右 仙洞 宸筆 執書

竹の子代進をいつき 宸筆の

執書頂戴し牙を希有此

由事ありけりくみん

武門の繁昌ハ朝家安泰の

御事先くつとひ當り

たみみのし祝をたけ

深からぬ 経をいよみ代

万也まことあひつら

り多始つしはかりし

天穂におりせ行ひ

十月十日 御字少判

東福門院沙方



今度 讓位 即位 帝  
相 綱目 之 度 皇 宗 孫 子 多 統  
辦 家 之 每 寓 公 為 集 為 上  
—— 公 委 細 一 演 述 作 此 由  
直 巧 達 教 用 公 說 之

月日所譯

元所  
友傳 卷

為 年 始 之 沙 稅 後 御 太 刀  
一 腰 御 馬 一 疋 進 獻 之 公  
猶 大 作 均 後 一 令 言 上 作  
此 中 宜 巧 達 教 用 公 說 之

正月十日所譯

元所  
友傳 卷



御大刀

一腰

御馬

一疋

以上

右禁裏御進献之御物は  
 大言檀紙一枚也但元和三年  
 秀忠公 御案内之御曾我  
 尚祐沙月録洞之時新  
 為氏卿以来 公可家月録  
 御輝云々

少々のふれ乃け志きとて  
 御書こゝに由るく詔の  
 々々一始り由るく祝入  
 初下け多々人々  
 とるく由るくさいのう  
 及んてさし何事は  
 少心及るく  
 し

右書紙の

い志總



わしうけしよまけしをさ  
うかやそく下りうん海し  
あお命やれしし

此うし道とくし何すなく  
入海しはるし西使とくはるの  
くし終まんきくししはる  
志ゆしうく系内流系しし  
此くえしうんし格しし  
あしうしし

天樹院の西  
息光

獻上

雄劔

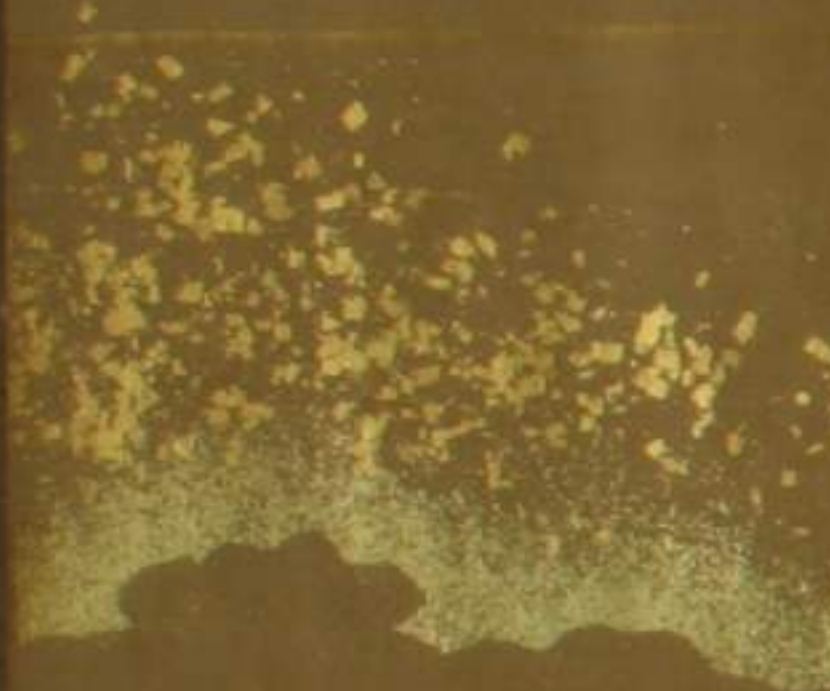
龍蹄

以上

一振

一疋

右、東照宮に御進献之趣也





一異國之席月録

別副

白銀

千兩

屏風

二十隻

計

坐入之

平人名字實可也之也

△御内書之趣

為考中之祝儀惟子單物  
松敷十賜始之飲也  
松浦并雅樂可述作  
流之

又月日所澤

紙

大約之度



為重陽之嘉像小袖人  
宮相贈之飲此公委曲  
酒并雅承取之述公流之

九月日 御諱

本願寺後

為歲暮之佳美小袖人  
宮相贈之飲此公委曲  
酒并雅承取之述公流之

十二月日 御諱

尾張  
中納言後



為歲嘗之礼食小神二尊  
永集款入の事細述并  
雅果以之述人治之

十二月日

御譯

甲府  
宰相友

水戸  
宰相友

為瑞尔之嘉祥帷子草物  
教又到来悦受之於酒并  
雅樂以可述人治之

八月日 御譯

越後  
三位中納言



初来致意之書也  
一述人也

月日 御墨下 是月廿六

發  
中抄友

致意少抄友

初来致意之書也  
可述也

月日

出雲均辰之

書也  
一也

月日

松平死彈書之



杉一ノ下也

月日

小糸浮瑠子也

△奉書之趣

振家大臣

親王家

宮内門跡

栲政殿

関白殿

伏見殿

仁和寺殿

御書致洋見公

以由一之淺達公

隠岐河内友



枋家門跡

公方門迹

清花大匠

振家云卿

御書政洋見山

寺及初元不同前

清花門跡

五平願寺

但毗沙門堂八重札也

寺繪政洋見山

寺而初元不同前

清花大約言

五札也

寺繪政洋見作

菊亭大約之殿

此以下或寺札沙札或山札

尾張殿

紀伊殿

水戸殿

御書政洋見山

此有直飲淺津山



成瀬集人四友

水野對馬五友

中山後藤五友

中將

涉札致洋見

松平越後守殿

松平加積守殿

少將閣下

涉札令洋見

松平越後守殿

侍從大石

水野令抄見

此以下三万石以上

水野令抄見

廻牧野依渡守家侍從

大石、田原、河原、水野

破見

水野令抄見

水野令抄見







さびしくつてさびしくし

由妙と見らし 儲君の事

明子に又歳とあせり是年

なすひと正月の例りくおれし

親王 宣下しせしむれしと

おほしきしこまき

女院河原極へおしり子とよみ

かうにと 院河原極へ

佐とんせしと院へしとあはれ

しとあはれ 女院極へおしり

とくせしと女院へしとあはれ

仙洞へおしりく佐とんせしと

しとあはれしと院へしとあはれ

親王 宣下しせしむれしと

ゆきよしと院へしとあはれ

おしりしと院へしとあはれ

とくせしと女院へしとあはれ

十二月十九日

さびしくつてさびしくし

明子に又歳とあせり是年

なすひと正月の例りくおれし

親王 宣下しせしむれしと

おほしきしこまき

大徳作紙

さびしくつてさびしくし  
明子に又歳とあせり是年  
なすひと正月の例りくおれし  
親王 宣下しせしむれしと  
おほしきしこまき



御臺極之形

女院御所同系

又

本理院御所之西御所方系極若御所

此以三人之治為之形同系少

心持あり











